

住宅(物件)ID	202013410887	住宅(物件)名	東大沢四丁目戸建(宅建)
届出事業者名	株式会社 フラワーホーム	現場立会者氏名	大田 拓也
検査員氏名	武田学	瑕疵検査実施日	2020 年 4 月 18 日

構造耐力上主要な部分に係るもの		判定		
検査部位	検査項目(下記の劣化事象等が認められた場合は「指摘有」とする)	該当無	指摘無	指摘有
基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅0.5mm以上のひび割れ</li> <li>コンクリートの著しい劣化</li> <li>さび汁を伴うひび割れ、欠損(エフロレッセンスを含む)</li> <li>深さ20mm以上の欠損</li> <li>鉄筋の露出</li> </ul>	—	■	□
土台・床組	<ul style="list-style-type: none"> <li>著しいひび割れ、劣化、欠損</li> </ul>	□	■	□
床	<ul style="list-style-type: none"> <li>著しいひび割れ、劣化、欠損</li> <li>6/1000以上の傾斜 最大傾斜値( 2.0 )/1000・計測場所( 2 )階 ( 洋間C )</li> <li>著しい沈み</li> </ul> ※計測した傾斜値は傾斜測定一覧表に全て記入すること	—	■	□
柱	<ul style="list-style-type: none"> <li>著しいひび割れ、劣化、欠損 (すべて大壁で柱が見えない場合は「該当無」にチェック)</li> <li>6/1000以上の傾斜 最大傾斜値( )/1000・計測場所( )階 ( )</li> </ul> ※計測した傾斜値は傾斜測定一覧表に全て記入すること	■	□	□
梁	<ul style="list-style-type: none"> <li>著しいひび割れ、劣化、欠損</li> <li>梁の著しいたわみ</li> </ul>	—	■	□
外壁・軒裏	<ul style="list-style-type: none"> <li>下地材まで達するひび割れ、欠損、浮き、はらみ、剥落</li> <li>複数の仕上げ材にまたがるひび割れ、欠損(乾式仕上げ、タイル仕上げの場合)</li> <li>金属の著しい錆又は化学的侵食(乾式仕上げの場合)</li> <li>仕上げ材の著しい浮き(乾式仕上げ以外の場合)</li> </ul>	—	■	□
バルコニー	<ul style="list-style-type: none"> <li>支持部材、床の著しいぐらつき、ひび割れ、劣化</li> </ul>	□	■	□
内壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>下地材まで達するひび割れ、欠損、浮き、はらみ、剥落</li> <li>6/1000以上の傾斜 最大傾斜値( 1.5 )/1000・計測場所( 2 )階 ( 廊下 )</li> </ul> ※計測した傾斜値は傾斜測定一覧表に全て記入すること	—	■	□
天井	<ul style="list-style-type: none"> <li>下地材まで達するひび割れ、欠損、浮き、はらみ、剥落</li> </ul>	—	■	□
小屋組 (下屋を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>著しいひび割れ、劣化、欠損</li> </ul>	□	■	□
蟻害	<ul style="list-style-type: none"> <li>下記部位における著しい蟻害(白蟻の蟻道を含む)</li> <li>基礎、土台、床組、床、柱、梁、外壁、軒裏、バルコニー、内壁、天井、小屋裏</li> </ul>	—	■	□
腐朽等	<ul style="list-style-type: none"> <li>下記部位における著しい腐朽等(菌体(カビ、茸等)の付着含む)</li> <li>基礎、土台、床組、床、柱、梁、外壁、軒裏、バルコニー、内壁、天井、小屋裏</li> </ul>	—	■	□
鉄筋の本数・間隔	<ul style="list-style-type: none"> <li>構造耐力上問題がある鉄筋の不足 (計測結果は別紙に記入)</li> </ul> 【注意】小規模住宅(階数3以下かつ延床面積500㎡未満の住宅)は基礎に劣化事象等がある場合に限り是正後に鉄筋探査を行う (小規模住宅で基礎に劣化事象等がない場合は「該当無」にチェック)	■	□	□

雨水の浸入を防止する部分に係るもの		判定		
検査部位	検査項目(下記の劣化事象等が認められた場合は「指摘有」とする)	該当無	指摘無	指摘有
屋根	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋根葺き材の著しい破損、ずれ、ひび割れ、劣化、欠損、浮き、はがれ</li> <li>防水層の著しい劣化又は水切り金物等の不具合(陸屋根の場合)</li> </ul>	—	■	□
小屋組	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨漏り跡</li> </ul>	□	■	□
軒裏	<ul style="list-style-type: none"> <li>シーリング材の破断、欠損</li> <li>雨漏り跡</li> </ul>	□	■	□
外壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>シーリング材の破断、欠損</li> <li>建具周囲の隙間又は建具の著しい開閉不良</li> </ul>	—	■	□
バルコニー	<ul style="list-style-type: none"> <li>防水層の著しい劣化、ひび割れ、欠損又は水切り金物等の不具合(陸屋根・屋上・共用廊下等含む)</li> </ul>	□	■	□
内壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨漏り跡</li> </ul>	—	■	□
天井	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨漏り跡</li> </ul>	—	■	□
外壁等 シーリング	【注意】延長保証保険の場合に追加する検査項目 (延長保証以外は「該当無」にチェック) <ul style="list-style-type: none"> <li>劣化事象等に達していない亀裂、ひび割れ、欠損、肉やせ</li> </ul>	■	□	□
改修箇所	【注意】延長保証保険の場合に追加する検査項目 (延長保証以外および延長保証で改修工事を行わない場合は「該当無」にチェック) <ul style="list-style-type: none"> <li>改修箇所の施工状況(改修工事を行う場合)</li> </ul>	■	□	□

住宅(物件)ID	202013410887	住宅(物件)名	東大沢四丁目戸建(宅建)
----------	--------------	---------	--------------

給排水管路に係るもの 検査対象外: 「保険申込事前検査」・「既存住宅かし保険(売買タイプ)」で給排水管路の担保に関する特約を付帯しない場合及び「リフォームワイド」・「延長保証保険」の場合 ※水道が使用できず確認ができない場合は判定の「指摘有」にチェック		<input type="checkbox"/>	検査対象外の場合はチェック	
検査部位	検査項目(下記の劣化事象等が認められた場合は「指摘有」とする)	判定		
		該当無	指摘無	指摘有
給水・給湯管(外部・内部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>漏水(全ての給水・給湯設備接続部を確認)</li> <li>給水流量(全ての給水栓を確認※)</li> <li>給水管・給湯管の腐食又は著しい損傷</li> <li>給湯温度(全ての給湯栓を確認※)</li> <li>赤水(全ての水栓を確認) ※洗濯機が接続されている洗濯機用水栓は検査対象外</li> </ul>	—	■	□
排水・汚水管(外部・内部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>漏水(全ての排水設備接続部を確認)</li> <li>排水管又は汚水管の腐食又は著しい損傷</li> <li>排水の滞留(全ての排水設備の排水状態を確認)</li> </ul>	—	■	□

給排水設備・電気設備・ガス設備に係るもの 検査対象外: 「保険申込事前検査」・「既存住宅かし保険(売買タイプ)」で給排水設備等の担保に関する特約を付帯しない場合及び「リフォームワイド」・「延長保証保険」の場合 ※水道・電気・ガスが使用できず確認ができない場合は判定の「指摘有」にチェック		<input type="checkbox"/>	検査対象外の場合はチェック	
検査部位	検査項目(下記の劣化事象等が認められた場合は「指摘有」とする)	判定		
		該当無	指摘無	指摘有
受水槽 高置水槽	<ul style="list-style-type: none"> <li>漏水</li> <li>腐食又は著しい損傷(支持部材含む)</li> </ul>	■	□	□
揚水ポンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>漏水</li> <li>腐食又は著しい損傷(支持部材含む)</li> <li>ポンプ作動確認</li> </ul>	■	□	□
電気温水器	<ul style="list-style-type: none"> <li>給湯温度</li> <li>著しい腐食又は著しい損傷</li> </ul>	■	□	□
排水ポンプ (雑排水・汚水・湧水排水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>漏水</li> <li>腐食又は著しい損傷</li> <li>排水の滞留</li> </ul>	■	□	□
汚水ます(外部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>漏水</li> <li>排水の滞留</li> </ul>	—	■	□
雨水ます(外部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>漏水</li> <li>排水の滞留</li> </ul>	□	■	□
電気(外部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>支持部材の腐食又は著しい損傷</li> <li>照明器具の著しい損傷及び作動不良</li> </ul>	—	■	□
電気(内部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>分電盤の作動不良又は著しい損傷</li> <li>照明器具の著しい損傷及び作動不良</li> </ul>	—	■	□
換気設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>著しい損傷</li> <li>給気ガラリ・排気ガラリの閉鎖</li> <li>■ キッチン ■ 洗面室 ■ 便所 ■ 浴室 □ その他 ( )</li> </ul> 該当する換気設備にチェックを入れる	—	■	□
	<ul style="list-style-type: none"> <li>換気ダクトの脱落(ダクトを使用していない場合は「該当無」にチェック)</li> </ul>	□	■	□
ガス配管	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガス管の腐食または劣化(外部・内部共)</li> </ul>	□	■	□
設備器具	<ul style="list-style-type: none"> <li>給水栓給湯栓固定</li> <li>器具の固定(給水栓、給湯栓、排水、設備機器)</li> <li>排水固定</li> </ul>	□	■	□

売買かし保険で引渡後に現況検査を行う場合の追加検査項目		判定		
項目	検査項目(下記が確認できない場合は「指摘有」とする)	該当無	指摘無	指摘有
引渡後検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>引渡前と建物の状態に変更がない(家具の搬入・リフォーム等)</li> <li>【注意】保険申込者(立会者)にヒアリングで確認(引渡後の検査以外は「該当無」にチェック)</li> </ul>	■	□	□

● 引渡後に現況検査を行う場合はすべての居室(廊下、水廻りを含む)を撮影すること

指摘事項(概要)備考	指摘事項がある場合は別紙『不備連絡書』を作成し、事業者へFAXすること 【注意】不備連絡書はハウスジーマンへの提出と届出事業者へのFAXを必ず同日に行うこと		総合判定	
	外壁シーリングの破断が建物全周に点在していた		■	□
提出前の確認事項	① 住宅(物件)ID・住宅(物件)名 ② 検査実施日	是正確認日	年	月
	③ 確認結果・判定・総合判定のチェック漏れ ④ 写真添付	(是正完了確認後、是正確認日を記入し検査システムにアップロードすること)		

● 現場検査報告書、不備連絡書は検査実施日から3営業日以内にハウスジーマンに提出すること

● 写真の撮影箇所は「現況検査の手順(木造・鉄骨造)」の現況検査写真撮影箇所を参照  
共同住宅等の場合は「共同住宅等用写真帳票(共通用・住戸用)」を提出すること

鉄筋の本数・間隔 <input type="checkbox"/> 底盤部有 <input type="checkbox"/> 底盤部無(布基礎)											
構造耐力上主要な部分に係るもの											
検査対象: 大規模住宅											
小規模住宅(ただし基礎に劣化が確認された場合に限り是正後に検査を行う)											
測定箇所		鉄筋1	間隔	鉄筋2	間隔	鉄筋3	間隔	鉄筋4	間隔	鉄筋5	平均間隔
立上り部 縦筋間隔	X方向	0	0		0		0		0		0
	Y方向	0	0		0		0		0		0
測定箇所		鉄筋1	間隔	鉄筋2	間隔	鉄筋3	間隔	鉄筋4	間隔	鉄筋5	平均間隔
底盤部 鉄筋間隔	短辺	0	0		0		0		0		0
	長辺	0	0		0		0		0		0

- 【検査方法】
- 立上り部分はX方向・Y方向各1箇所の縦筋をそれぞれ4ピッチ検査すること
  - 底盤部分は1箇所の鉄筋を短辺・長辺でそれぞれ4ピッチ検査すること

- 【記入方法】
- 最初に検知した鉄筋を鉄筋1とし、その鉄筋を基点に鉄筋2、3、4、5までの距離を表に記入すること(間隔及び平均間隔は自動計算)
  - 計測数値を  部分に入力

